



弔 辞

法学部 中川 剛教授は、去る二月八日逝去された。享年六十歳。こんなに早く幽明境を異にすることになるとは、真にやるせない気持ちである。

中川先生は、昭和四十二年四月、当時の政経学部の行政法講座の助教授として着任された。そのご研究は、先駆的な「権力分立制の研究」に始まるが、憲法、行政法、行政学そして文化人類学的な領域にいたるまできわめて幅が広い。殊に、とらわれぬ目で憲法を見直そうとしておられたことが、先生をユニークな公法学者にしている。その幅広い研究活動も、「法における不易なるもの」、つまり実定法の規定を超えその根底で働いている規範を見つめておられたのではないかと、私には思われる。また、小説や随筆をものされ、研究だけにとどまらぬ多才な方であった。さらに、行政上の各種委員を通して地域に大きな貢献をされた。

中川先生は、時代の先を読む確かな眼力とものごとの本質を端的に掴むことに長け、好奇心旺盛な知性の持主であった。随筆にそれがよく表れていると思う。

訃報に接したとき、中川先生は、ご自分の関心のあること、好きなことだけに自己を集中して人生を駆け抜けて行かれた、という像が私のなかで結ばれた。奥様をはじめご遺族の深い悲しみは、察するに余りあるが、ご長男の久丈君が同じく行政法の研究者に成長されたことは、まことに心強いことである。

願わくば、法学部の憲法、行政法の講座では、阪本教授を中心に、高田君、佐伯君、野呂君という気鋭の研究者の今後の精進の様を見守っていただきたい。中川 剛先生のご冥福を衷心よりお祈りする次第である。

法学部民事法講座

紺谷浩司（こんたに・こうじ）



名誉教授 古前 恒先生のご逝去を悼む

古前 恒先生は、二月二十八日、六十七歳で急逝されました。一週間前、新しく出版する本の原稿のことでお電話し、親しくお話したばかりでしたので、しばらくは信じることができませんでした。

先生は、師範学校附属小学校、高等師範学校附属中学校、広島工業専門学校および広島文理科大学を卒業され、ただちに文理科大学助手を拝命し、次いで理学部助手、皆実分校講師、皆実分校助教授、教養部助教授・教授、総合科学部教授を歴任して、人生の大部分を広島大学とともに過ごされました。平成二年のご退官後もときどき大学に來られ、そのお元氣なお姿をお見かけしました。教育・研究に対する情熱と温厚なお人柄は、学生の深い敬愛と信頼を集め、先生を訪ねてくる卒業生は、絶えることがありませんでした。

また、大学紛争を契機とした一般教育の充実、総合科学部の創設時には、各種委員を務め、大学・学部の管理・運営に貢献されました。先生は、化学生態学と香料・テルペン化学を専門とされ、境界領域の化学生態学分野では、ご自身による生物個体間に作用する物質の研究を主にまとめ、『生物間の化学的交渉』を出版し、日本に化学生態学を広めることに貢献しました。また、香料・テルペン関連分野では、草花や樹木の香氣成分を詳細に分析・構造解析して、生物資源の有効利用の基礎的研究を行い、森林浴、フィトンチッド、精油などに関する先駆的な研究を行った。ご専門の関連で、自然の草花・動物（昆虫）を愛され、国内外へ毎年数回、動植物の採集・観察旅行を楽しんでおられました。

今、ここに永久のお別れをすることは耐え難いこととありますが、ご指導を受けたことを心から感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

総合科学部自然環境講座

林 七雄（はやし・ななお）



追悼 寺西靖治先生のあの笑顔がなつかしく...

寺西靖治教授は、三月十日朝、入院中の広島市民病院で逝去されました。享年五十六歳。ちょうどその前日、お見舞いに行つてドアの隙間からお見かけた姿が最後になりました。昨年九月に入院され、手術の経過も良好ということで、一月上旬には退院されて自宅で療養されていました。もう少し暖かくなつたら、大学に出てこられるものと楽しみにしていました。二月に再入院されたので、心配していたところでした。昨年、入院される前にはとてもお元氣だったのに、わずか半年で訃報に接することになろうとは...

先生は、広島大学を卒業後、京都大学大学院に進まれ、富山県立技術短期大学、鳥取大学工学部に奉職された後、一九七二年に広島大学工学部に赴任されました。先生の研究は、「市街地からの雨天時汚濁流出」、「下水の高度処理」、「廃棄物処理」など環境問題に関して広い範囲にわたっており、いくつかの研究成果はすでに実用化されています。

先生の温厚で明るい人柄は、学生をはじめ多くの人々を惹きつけていました。話し上手で、スポーツ万能、歌も上手で、大のカープファン、いつも他人への思いやりを忘れない、本当の紳士でした。

先生のこの写真は、告別式に飾られたものです。にこやかな先生の笑顔を見るとしみじみと懐かしく、もう二度とお会いできないことが信じられません。先生は、これからもみんなの心の中にいつまでも生き続けられることでしょう。先生のご冥福を心からお祈りいたします。

工学部地域環境工学講座

山口登志子（やまぐち・としこ）